



# IMJ ニュース

日本統合医療学会 会報

No.14

2014年3月31日発行

編集・発行 一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長 川嶋みどり URL:http://imj.or.jp/  
〒112-0013 東京都文京区音羽1-1-9 パイファルビルディング音羽5階 アドバンテージ株式会社(内)  
一般社団法人日本統合医療学会事務局 E-mail:imj@imj.or.jp TEL:03-5978-6850 FAX:03-6912-0376

## 巻頭言



## 支部活動状況と今後の展開

古賀 伸彦

九州支部長、  
社会医療法人天神会理事長

第17回統合医療学会大会（IMJ2013東京大会）は菊地眞大会長のもと、「統合医療の世紀～持続可能な社会における医療：エコ・ヘルスケアの実現」のテーマで盛会裏に終わりました。支部活動は統合医療の理念を学び、統合医療の実践・普及の場としての役割を担っています。それは本部と一方通行の関係ではなく、東日本大震災後の活動にみられるように、地方における統合医療実践の経験は本部にフィードバックされ、今後の学会運営にも反映されており、本学会の発展に寄与するものです。

### ＜支部活動状況＞

そのような背景から、大会2日目には「日本統合医療学会支部の会」のシンポジウムがもたれ、さらに3日目早朝の支部運営委員会では、全国の13支部の参加者から活発な意見交換が行なわれました。

#### ①現在と今後の支部設立への期待

現在、支部登録されているのは、北海道支部、東北支部、福島支部、山形支部、京滋支部、阪奈支部、兵庫支部、和歌山支部、山口支部、四国支部、九州支部、宮崎支部、鹿児島支部の13支部です。県単位や地方単位などまちまちに設立されていますが、全国を網羅するには至っていません。しかし、今後、関東支部や宮城支部、広島支部、熊本支部など全国各地で支部設立が予定されています。

各支部は医師の指導のもと運営されていますが、活動の領域が漢方、鍼灸、ヨガ、アロマ、柔道整復など多岐にわたる関係で、その地域ごとの特色が出ています。また、さらに多くの職域からの幅広い参加が望まれています。支部の立ち上げは医師以外の方でも可能ですから、全国的にさらなる支部設立の機運が広がることを期待しています。

#### ②支部と地区本部と学会本部の組織構築

仁田理事長は全国を道州制に近い形で大きく地区

本部として分け、その下部組織として各県に支部を設立し、統合医療の目指すプランを提言されました。

そのプランに沿って九州支部内で検討してみました（久保九州大学病院長との検討案）。

九州では福岡、宮崎、鹿児島に支部がありますが、九州管内を取りまとめるためにも、現在の九州支部（福岡）に事務局を置き、各支部から2名程度の委員を選出（支部長ともう1名）していただき、九州管内のとりまとめを行ないます。名称は「九州支部」または「九州ブロック」の方向で調整します。それにとめない、現在の「九州支部」の名称は「福岡支部（ブロック）」に変更し、世話人をもう少し増員します。県に支部がないところは、福岡支部（ブロック）にて、支部ができるまでカバーします。

各支部独自で勉強会や研究会を開きます。その会には九州各地からも積極的参加をお願いし、また、九州地区で年1回は持ち回りで学術集会（地方会）を開催します。

現在、熊本支部設立の要請もあり、まずは九州から、仁田理事長構想の早期実現を目指していきます。

#### ③支部の抱える課題

1. 支部の名称について：「〇〇県支部」とするのか県を付けずに「〇〇支部」でもよいのか、また、長年、研究会を实践されてきた支部からは、「従来通りの名称を使いたい」旨が要望されましたが、当面は各支部の意向を尊重する方向とな

#### 九州支部(ブロック)





りました。

- 資格認定取得のための講習会の開催：支部で講習会を開催する場合、本学会の認定委員会で認証されたプログラムであれば専門制度の資格認定の3単位が付与されます。その際の講師の派遣や紹介については本部や近隣の支部会から積極的に協力を行なっていきます。

### おわりに

代替補完医療を多くの人々が利用するようになってきましたが、統合医療の実際と名称はそれほど理

解されていません。支部活動を通じて統合医療のネームバリューのさらなる普及に務めていきます。

統合医療の実践において、活動のモデルとなる地域や施設も少なくなく、そのような先進的な施設の中から、次次回、第19回の大会長に山口支部の柴田眼治先生が推挙されたことは特筆すべきことであり、統合医療の普及と実践に支部の果たす役割の大きさを実感するものです。今後、関連領域の皆様と各支部との連携を深め、さらなる支部活動の充実を図ってまいります。

## 支部だより

### 東北で3番目 —日本統合医療学会福島県支部設立

今村 幸子  
福島県支部事務局長

宮城県、山形県に続き東北で3番目の支部として福島県支部が創設されました。東日本大震災に引き続いて起きた原発事故による人々の不安や健康問題に対処するために、今こそ統合医療の出番であるとの仁田理事長の強い思いと、熊代永福島県医科大学名誉教授、中野新一福島県伊達医師会会長のお計らいにより、県下の医療関係者、大学教授、ヨーガ認定療法士等の多彩な顔ぶれが揃いました。

そこで、平成25年12月1日に丹羽真一設立発起人代表（福島県病院事業管理者・福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座特任教授）の呼びかけに賛同された22名の賛同者を中心に、設立総会が開催されました。総会では、会則・事業計画・収支計画・役員選出等が承認されました（役員氏名は右記を参照）。

総会後の支部創設記念講演会には、一般の方を含め80名の方たちが参加され、熱心に統合医療に関するお話を耳を傾けました（写真参照）。演題と演者は次の通りでした。「統合医療これからの展望」

仁田新一  
日本統合医療学会理事長  
「大災害支援とヨーガ療法」  
木村慧心  
日本ヨーガ療法学会理事長  
「ふくしま医療機器産業推進  
機構の役割、並びに第17回日本統合医療学会大会について」  
菊地 眞（公財）医療機器センター理事長



同付属医療機器産業研究所長

なお、この記念講演会は、福島県医師会・福島県精神保健福祉協会の後援によるもので、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

\*

被災後3年を過ぎましたが、福島県下の住民のみならず、まの健康への不安は、時々刻々と変化しながらも、未だに払拭しきれていない状況を思います時、日本統合医療学会福島県支部の創設は、まさに時宜を得たものであり、今後の活動が期待されます（編集部）。

### <福島県支部>

所在地 〒960-8076 福島県福島市上野寺字館47-2

E-mail : sput5rx9@crest.ocn.ne.jp（今村幸子）

TEL & FAX : 024-591-1860

顧問 熊代 永 福島県立医科大学名誉教授、福島市あずま通りクリニック名誉院長

支部長 丹羽 真一 福島県病院事業管理者・福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座特任教授

副支部長 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座教授

斎藤 拓朗 福島県立医科大学会津医療センター外科学講座教授、福島県立医科大学臓器再生外科学(兼務)

監事 中野 新一 伊達市伊達医師会会長・中野病院院長

白石 豊 福島大学人間発達文化学類教授

幹事 熊倉 徹雄 郡山市針生ヶ丘病院院長

富永国比古 郡山市ロマリンドクリニック院長

佐藤百合子 福島市南循環器科病院・桜台クリニック(漢方医)

山本 俊昭 伊達市福島松が丘病院院長

金森 良 南相馬市雲雀ヶ丘病院院長

伊藤 光宏 福島市一陽会病院院長

海野 幸浩 福島市板倉病院院長

大野 篤志 福島市富士病院院長

渡部 芳徳 白河市南湖こころのクリニック院長

小野 正美 福島市西口ハートクリニック院長

今田 剛 耶麻郡猪苗代町(尙)自然医療センター医師

佐久間 啓 郡山市あさかホスピタル院長

渡辺久美子 福島県立医科大学器官制御外科学講座

太田ゆう子 日本ヨーガ療法学会 認定ヨーガ療法士

事務局長 今村 幸子 日本ヨーガ療法学会理事 福島県幹事長 認定ヨーガ療法士、特定非営利活動法人復興支援ヨーガの風代表理事

事務局長 笹岡 伸司 日本ヨーガ療法学会 認定ヨーガ療法士

## 支部だより

### 「風は南から」を合言葉に 鹿児島支部が誕生

吉田 紀子  
鹿児島支部長

平成25年10月5日、鹿児島支部が設立されました。この日に至るまでの支部設立世話会会の12人の有志らのご努力に敬意を表し、そのご苦勞をねぎらうとともに、統合医療の創造と普及のよりどころがまた1つ増え



たことを、心から喜びたいと存じます。

設立大会の様子と今後の支部活動への力強いメッセージが、吉田支部長（IMJ代表代議員 鹿児島県赤十字血液センター所長）から寄せられました（編集部）。

\*

鹿児島市城山観光ホテルで開催された設立大会は、80名の方たちに参加いただき、IMJ本部の仁田理事長他の参列のもと盛会裡に開会しました。総会では、本支部創設の意図とこれまでの経緯の報告を受けた後、全会一致で支部創設を承認し、役員を選出してその第1歩がスタートしました。

設立総会に引き続き講演会では、川嶋朗先生による「お任せ医療は日本を減ぼす?!」というテーマでの講演がありました（本紙に川嶋先生のご講演内容を寄稿いただきました）。「死を敗北ととらえるのではなく、死に方や死ぬ時期を想定し、そこまでは元気でいようという思いを持てば、よりよい生き方ができる」として「統合医療とは人を幸せにする医療である。つまり最期がもっとも幸せであることを目指す医療である。意識改革を実現し、日本を救うのも統合医療の役割である」とのお話に、会場を埋め尽くした参加者（非会員の方たちを含め）、心から共感し感銘を受けていました。

引き続き祝賀会・名刺交換会では、さまざまな分野の会員・非会員が交流、情報交換をしました。今後は、研究部会を設立し、「医療部会」「予防・ケア・社会部会」を設け、支部設立の趣旨を踏まえて、IMJ本部との繋がりのもと、幅広い活動を行なうとともに県民公開講座の開催など、地域に密着した支部づくりを展開していきます。

### <鹿児島支部>

所在地 〒890-8520 鹿児島県桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学大学院心身内科学内  
TEL：099-275-5751  
E-mail：asakawa@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp（浅川明弘）  
支部長 吉田 紀子 鹿児島県赤十字血液センター所長：医師  
(副理事長)  
理事長 乾 明夫 鹿児島大学大学院歯学総合研究科心身内科学教授：医師  
事務局長 浅川 明弘 鹿児島大学大学院歯学総合研究科心身内科学准教授：医師  
理事 牧角 寛郎 聖医会サザン・リージョン病院院長：医師  
原田美佳子 メディポリスがん粒子線治療研究センターセンター長代理：医師  
山口孝二郎 鹿児島大学病院口腔外科診療講師、漢方診療センター副センター長：歯科医師  
柿元美津江 鹿児島純心女子大学看護栄養学部看護学科教授：看護学、保健師  
米澤 守光 鹿児島県赤十字血液センター事業指導監：薬剤師  
中野 明子 日本ヨーガ療法学会理事、鹿児島県幹事長：ヨーガ療法士  
黒木 靖子 (日本アロマ環境協会アロマセラピスト)(アロマセラピスト)  
久木田和隆 久木田学園看護専門学校学園長、鹿児島鍼灸専門学校副校長：鍼灸師  
監事 上山 達典 腎愛会上山病院理事長、鹿児島透析医会長：医師  
永野 幸子 鹿児島県赤十字血液センター総務課長



吉田紀子世話人代表による設立趣旨説明



未来型医療にふさわしい統合医療をすすめようとする仁田理事長

寄稿

## お任せ医療は日本を減ぼす



川嶋 朗

日本統合医療学会理事  
東京女子医科大学  
(現 東京有明医療大学)

2012年の医療費は約38.5兆円で、この年の税収は約42兆円である。これでは消費税を多少増税したところで借金が減るはずがない。医療の進歩に伴い、医療技術や医療機器もどんどん刷新され、平均寿命が飛躍的に伸びて高齢者が急増。現時点で医療費の約半分を65歳以上が占めていることから、今後、さらに医療への需要が増す。このペースで医療費が拡大すれば、65歳以上の比率が30.5%になると試算されている2025年には国民医療費は56兆円に達する。これでは、常識で考えれば、わが国はつぶれてしまうのである。

政府は増大する医療費を削減しようとするが、需要が増すのに医療費をやみくもに削減すれば、医療の質が低下することは目に見えている。そして医療事故やミスも必然的に増えてしまう。医療の質を低下させず医療費を縮小するには、必要以上に医療費が使われないようにし、本当に必要なところには十分に医療費をつぎ込むことが重要である。具体的には、病気になること、つまり予防である。病気になるなければ、医療費が使われることはなく、余剰分で医療の質を維持あるいは向上させることが可能となる。

予防というと、感染症ならば衛生管理や予防接種など社会的な予防も大切であるが、他人任せでできる予防には限界がある。

メタボリック症候群に着目して生活習慣病や関連疾患を予防、減らすことで国の健康保険制度の医療費負担を大幅に抑えて、本当に必要で予防できない病気に医療費を回し高齢者医療の確保を目的として、2008年4月から特定健診、特定保健指導が実施されている。対象になるのは40歳～74歳の健康保険の加入者で組合健保、共済組合、国民健康保険など医療保険者（市区町村や企業）が特定健診を実施する義務と生活指導する責任を負うことになる。この制度の実施で目的を本当に達成することができるだろうか。かえって医療費の増大とはならないだろうか、など考え出すと少々不安になる。

生活習慣病およびその予備軍は男性の2人に1人、女性の5人に1人、40～74歳という特定健診対象の年齢

層では約1,900万人いると言われている。生活習慣病関連の医療費は国民医療費全体の1/3に及ぶのである。本来、メタボ健診は「受診者自身の身体の状態を把握する指標」として位置付けるべきで、余計な治療を受けるためのものではないはずである。ところが、実際は、糖尿病、高血圧などは、治らないけれど死なない病気なので程よくコントロールすれば医者が儲かると言われている通り、余計な治療がはびこっているのが現状である。特定健診が始まった当初、厚労省は2015年までに医療費を25%削減すると鼻息も荒かったが、その目的を達成するどころか医療費は増加している。もちろん国民がQOLを維持して楽しい老後生活を送れるというならその選択肢は否定しない。しかし医者には治療を拒否できず、薬をもらって来ては捨てている方がいるというのも現実なのである。

「悪玉コレステロールが高いので下げる薬を飲まなければいけません」

「でも先生、こういう薬は飲み始めたら一生続けなければいけないのでしょうか？」

「もちろんです」

この会話は、まさに医者の価値観の押しつけと患者の人生の丸投げに他ならない。薬は飲まなければいけないのではなく、飲めばどんな長短が、飲まなければどんな長短があるかを医者は説明し、その上で服用するかしな

いかは患者の権利である。また、一生飲み続けるか否かも医者に見極めるのではなく自らが決めるべきことである。わが国が世界に誇る国民皆保険制度は人生すら医者にゆだねる国民性をつくってしまったと言えるだろう。

医者は「死は敗北」「命を救うのが使命」と教えられ、それを実践してきた。その結果、寿命は延びたが、決して健康に延びたとは言えない。日本人の平均寿命と健康寿命は世界に誇るものだが、両者間には10年程度の開きがある。つまり自立できないで生きる期間が10年にも及ぶのである。しかし、相変わらず医者に行けば何とかなると思っているのが多くの日本人なのである。医者不足ということで厚労省では医学部の定員を増やしている。医者の給料も医療費であるから医学部の定員を増やせば医療費は増すことになる。医者を増やすのではなく病気を減らすことが急務なのである。

医療費を削減するには病気にならないこと、つまり予防である。予防を徹底すればいたずらに医者に頼ることもなく、結果的に医療費が削減できる。日本を救うには、疾病の発生そのものを予防すること、つまり二次予防以上に一次予防が重要ということになる。スペースの関係で筆を置くが、詳細は拙著『患者力のすすめ』（幻冬舎ルネサンス）を参照していただきたい。

（本稿は鹿児島支部設立大会ご講演をもとにおまとめいただきました。）

## 事務局だより

### 【学会事業報告】

- 平成25年11月30日(日) 山口県支部大会(第11回山口県統合医療学会総会) 会場:山口県立図書館レクチャールーム
- 12月1日(日) 福島支部設立記念大会  
会場:福島県青少年会館1階大研修室
- 12月20日(金) 平成25年度第2回通常理事会  
会場:日本赤十字看護大学 出席理事:20名
- 12月21日(土)・22日(日) 第17回日本統合医療学会大会  
会場:日本赤十字看護大学
- 12月21日(土) 代議員会 会場:日本赤十字看護大学202教室
- 12月22日(日) 第8回認定試験  
会場:日本赤十字看護大学202教室
- 12月22日(日) 会員総会 会場:日本赤十字看護大学広尾ホール
- 平成26年1月7日(火) 理事長諮問委員会  
会場:事務局 出席委員:5名
- 1月15日(火) 予算委員会  
会場:ステーションコンファレンス東京 出席委員:2名

- 2月2日(日) 理事長・副理事長会議  
会場:ステーションコンファレンス東京 出席:6名
- 2月7日(金) 理事長諮問委員会 会場:事務局 出席委員:4名
- 3月16日(日) 第3回通常理事会  
会場:八重洲ダイビル第一会議室 出席理事:14名

### 【今後の学会事業予定】

- 5月25日(日) 第3回教育セミナー 会場:昭和大学
- 6月29日(日) 社員総会 会場:東京大学医学図書館
- 7月5日(土) 熊本支部設立総会
- 7月19日(土)・20日(日) 統合医療郡山セミナー  
会場:ホテル華の湯(福島県郡山市)

### 【お知らせ】

- 2014年度年会費納入のお知らせを郵送いたしました。会費の納入をさせていただきました会員の方には随時会員カードをお送りします。
- 更新のための認定資格セミナー(総論)は7月26日(土)と10月4日(土)に開催されますので、2014年度認定資格更新の方(第6回試験合格者と第5回試験合格で更新猶予中の方)はご注意くださいようお願いいたします。(文責:事務局長 河野 明正)

## 編集後記

●統合医療への社会の関心も高まっていますが、各地に次々と誕生する支部の産声は全国の会員を勇気づけます。地域の特性を活かしたオリジナルな活動をみんなで共有し、相互交流を図りながら学会活動をいっそう活性化させましょう。これからも各地からの発信をお待ちします。●あの日から3年、桜の色は同じでも、健康問題は深刻さを増している被災地。組織的な統合医療的アプローチを実践することが求められています(川嶋みどり)。



大量自家血液オゾン療法 実技講習風景

## オゾン療法 NOW and FUTURE

(有)オゾノサン・ジャパンはオゾン療法普及を目指し、1997年に札幌の地に設立されました。IMJの創設とほぼ同じくらいの時期です。ヨーロッパではオゾン療法展開はその創出からおよそ100年を数え、ドイツではすでに保険会社の保険適用を受けている信頼された治療法になっています。昨年の第17回IMJ大会では、日本医療・環境オゾン学会が入門セミナーを実施しましたが、当社でもセミナーを開催しております。

現在、札幌市にオゾン療法専門クリニックとオゾン療法研究所があり、治療を、そして治療メカニズム解明の研究を進めております。

詳しくはホームページ <http://ozonosan.co.jp> を参照下さい。

痛みに関する健康相談 セントラルクリニック / 日本オゾン療法研究所  
〒060-0807 札幌市北区北7条西5丁目 ITMビル 4・5階 TEL: 011-758-5528

